

【【平成16年度専修学校社会人キャリアアップ教育推進事業】

事業名	福祉サービス提供者に対する園芸療法教育育成システムの研究開発		
学校法人名	学校法人 湘南みどり学園		
学校名	日本ガーデンデザイン専門学校		
代表者	理事長 鈴木 修	担当者 連絡先	小島 ゆり TEL:0466-28-0411

<事業の概要>

(1) 園芸療法教育プログラムの研究開発の狙い

高齢社会の我が国、福祉サービスの一層の充実が叫ばれる中、園芸療法にも大きな期待が寄せられている。

園芸療法は、花や土に触ることで人々の心身に活力が生まれ、暮らしの質が向上することを狙いとする。つまり、主役は人。植物を元気に育てることが目的ではなく、あくまでも人が元気になるために園芸作業を行うことを意味している。

この園芸療法が、高齢者や障害者等、福祉サービスを利用する人（クライアント）にもたらす効果は実証されつつある。しかしながら、福祉や園芸等に精通した園芸療法実践者の数はまだ少なく、福祉の現場への導入も進みにくいのが現状だ。

そこで、文部科学省の委託を受けて、我々は園芸療法実践者育成のための教育プログラム開発に着手した。

研究実施主体は、神奈川県藤沢市にある日本ガーデンデザイン専門学校。国内有数の園芸療法士、大学や専門学校の研究者、教職員、福祉施設の職員等が委員に加わり、研究をスタートさせた。

(2) 教育プログラムの概要

カリキュラムは、福祉施設等で園芸療法を実践する際、ボランティアを率い、クライアントに対して作業方法や使用植物の説明を行うリーダー養成に目的を絞って組み立てた。中でも社会人、とりわけ福祉従事者が園芸療法の知識を持って、仕事のキャリアアップをはかることに主眼を置いた。

受講生は、一般公募で参加した社会人 10 名余（いずれも福祉従事者や福祉経験者）と園芸療法に関心を持つ学生 6 名。時間に余裕のない社会人に配慮し、短期で一定の知識と技術を身に付けるためのプログラムとした。

プログラムは週 1 回、9 週間の日程で全 36 時間。このうち講義に 13 時間 30 分、実習に 19 時間 30 分、その他、研究に使用するためのアンケートへの回答等に 3 時間費やした。

講義では園芸療法の歴史、実践手順、クライアントの状況を記入する評価表のまとめ方、植物の基礎知識、リーダーとしての話し方などについて、それぞれの専門家が説明。また、実習は神奈川県厚木市のデイサービスセンターで 6 週にわたり、行われた。

(3) 研究調査の概要

今回の教育プログラムがクライアントと受講生にとって、有効かつ適性なものであったかどうかを検証するために、各種アンケート調査や面接調査を実施した。

まず、クライアントに関しては、受講生がクライアントの表情や動作などから評価表を作成し、

それを分析。その結果、回を重ねるごとに、植物や作業への興味が増し、周囲の人への関心も高まり、リーダーとの会話も多くなることがわかった。

また、今回の研究の大きな柱として、園芸療法が介助者やボランティアに及ぼす影響を調べることにあった。このため、園芸療法講座を受講する前の心理状況を計測するため、S F 3 6 によるQOLの状態や東大式エゴグラムによる自我状態を測定した。この際、園芸活動に対する変化も調査した。

また、精神科医による立場から「半構告化」した面接調査なども行った。その他には、東京都、神奈川・群馬県内の高齢者施設に対するアンケート調査を行い、介護施設の園芸療法の認知度やモチベーション等も調べた。

<成 果>

(1) 主な結果

短期教育プログラム講座を実施してみて、ほとんどすべての受講者が園芸療法の内容や効果を知ることができたと答えた。しかし、短期講座のため、園芸療法リーダーとして独り立ちするに至らなかつたと答えた方が大部分であった。しかし、今後園芸療法の情報を受けて実施したが、その半面、介護スタッフの多忙であるための受け入れの難しい側面も浮かび上がった。

受講者の意識の変化では、日常の園芸活動への興味が増大する傾向が観察され、また、好奇心や積極性、創造性が高まる傾向もみられた。

また、精神科医の立場からのインタビュー調査では、受講生の中核となったカテゴリーとして「園芸療法の効果を実感した」と「人間関係について考えた」の2つをあげ、園芸療法実習が対人学習の機能をもつことが指摘された。

介護施設に対するアンケート調査では、園芸療法をよく知っているとの回答が1/4程度にとどまり、園芸活動は約半数の施設で取り入れているが、その9割が趣味やレクリエーションとして行っており「園芸療法プログラム」としているところは、約10%のみで、まだ充分に園芸療法が介護施設にプログラムとしてシステム化していない状況がわかった。また、園芸療法を行っていない半数施設では、指導者がいない、場所、施設、情報がないことが理由となっている。

(2) 研究成果発表会および園芸療法シンポジウム

今回の教育プログラムの成果を報告し、より多くの人に園芸療法への理解を深めていただこうと、我々は3月5日(土)、東京大学農学部の大講義室で発表会とシンポジウムを開いた。来場者は福祉・医療関係、園芸関係、自治体職員、教員、議員、学生など、会場がほぼ満員となる約150名。前述のような研究成果の発表のあと、前全国知事会会長で前岐阜県知事の梶原拓氏の講演、さらに梶原氏、長野県園芸店経営者・濱昭夫氏、今プログラムの実習協力施設のセンター長・田中由美子氏、それに山根、児玉両委員によるパネルディスカッションも実施した。コーディネーターは山下委員が行った。

梶原氏は講演の中で「食べ物で胃袋を満たす時代は、もう終わった。21世紀は心を満たす時代。つまり花の時代だ。」と力説。また、パネルディスカッションでは「療法や福祉といった言葉にとらわれず、広く園芸健康法を国民が皆、取り入れればよい。園芸を楽しめば生き生きと暮らせる。医療費や健康保険の支出も少なくなり、計り知れない経済効果がある。」と述べた。また、園芸療法の普及による花生産業発展の可能性や青少年の健全育成への貢献についても、各パネリストから意見が出された。

シンポジウム終了後、各地から反響が寄せられている。「子供が病弱なので、自分が園芸療法士

になって子供や社会のために力を尽くしたい。」という父親、「社会的弱者のために園芸療法を取り入れるべきだ。実践者の養成が必要だ。」と市議会で訴える某議員、「ぜひ自分の町に来て園芸療法の有用性を話してほしい。」という年配の男性など。

今回の教育プログラムの研究開発、そして発表会、シンポジウムを通して、園芸療法の裾野は確実に広がっているように思われる。

(研究実施報告書、園芸療法教育プログラムテキストが僅少ですがありますので、使用目的等をお書きの上お申し込み下されば、無料で差し上げます。)

(3) 教育プログラム実施内容

日付	実施項目	実施内容	時間割
10月2日	園芸療法概論	1. HTとは何か(定義・歴史) 2.なぜ園芸か(園芸の有効性・特殊性) 3.高齢(障害)者施設に役立つ園芸の考え方・方法論 4.園芸・園芸福祉との違い、他療法との違い 5.HTの流れ 6.実践例紹介	10:00~12:00 12:50~14:20 14:30~16:00
10月16日	プログラムの立て方	1. HTプログラムの立て方(目標設定・園芸作業の選択・組み立て、準備・実施場の注意等) 2. HTのマネージメント(見積り・予算の立て方) 3. 評価について 4. 材料・道具の工夫・調達 5. 施設内での環境整備	10:00~12:00 12:50~14:20 14:30~16:00
10月22日	園芸活動	HTの視点からの園芸(実習の進め方)	10:00~12:00
	準備	実習準備	13:00~14:00
	HT実習	季節の寄せ植え	14:00~15:00
	片付・評価	片付・評価、レポート課題	15:00~16:00
10月29日	準備	実習準備	13:00~14:00
	HT実習	野菜苗(サニーレタス、ワケギ)の植え付け	14:00~15:00
	片付・評価	片付・評価	15:00~16:00

11月5日	園芸療法と植物	1. 基本的な植物の知識について（1~2年草、多年草（宿根草・球根）、観葉、温室、ラン類、多肉・サボテン類、花木）	10:00~12:00
		2. HTに向く植物、向かない植物（年中行事関連、縁起物・忌み物、有毒植物、有用植物、トゲのあるもの等）	
		3. 基本的な園芸作業について	
		準備 実習準備	13:00~14:00
11月12日	HT実習	ハーブ（レモンバーム、ミント）の植え込み	14:00~15:00
	片付・評価	片付・評価	15:00~16:00
	準備 実習準備		13:00~14:00
11月19日	HT実習	作品メンテナンスと押し花作り、スプラウトづくり	14:00~15:00
	片付・評価	片付・評価	15:00~16:00
	準備 実習準備		13:00~14:00
11月26日	HT実習	野菜の収穫、年末年始の花飾り（リースなど）	14:00~15:00
	片付・評価	片付・評価	15:00~16:00
	準備 実習準備		13:00~14:00
12月4日	HT実習	押し花作品作り	14:00~15:00
	片付・評価	片付・評価、レポート課題	15:00~16:00
	総評・まとめ	1. 実習総評・分析	10:00~12:00
総評・まとめ	2. 海外及び日本の現状（概略を簡単に）		
	3. 関連団体・実践施設（実践例）紹介		
	4. 紹介関連図書（参考文献）		12:50~16:00
	最終課題		

（4）研究実施委員

鈴木 修（日本ガーデンデザイン専門学校）児玉良治（日本園芸療法普及協会）
 渡辺俊之（高崎健康福祉大学）頭土智美（アメリカ園芸療法協会認定園芸療法士）
 矢野 広（東海大学医学部精神科学）細井 薫（テクノ・ホルティ園芸専門学校）
 山根健治（宇都宮大学農学部）水口聰子（テクノ・ホルティ園芸専門学校）
 大森 宏（東京大学農学部生物測定学研究室）遠藤久子（特別養護老人ホームけいわ荘）
 伊東政信（テクノ・ホルティ園芸専門学校）樋田奈穂子（特別養護老人ホームけいわ荘）
 最上正秀（聖ヶ丘教育福祉専門学校）小島ゆり（日本ガーデンデザイン専門学校）
 山下容子（武蔵野大学）郡司敏幸（グループホーム花樹）
 小泉 力（日本ガーデンデザイン専門学校）